

熟練の技を、次世代へと継承する。

CASE STUDY

中央技能振興センター

(受託者：中央職業能力開発協会)

CASE 01 建築板金

CASE 02 電気機器組立て

CASE 03 機械検査

CASE 04 パン製造

CASE 05 広告美術仕上げ

CASE 06 タイル張り

CASE 07 機械加工

CASE 08 家具製作

CASE 09 電気溶接

CASE 10 とび



はじめに

熟練技能者の高齢化や若年者を中心とした「ものづくり・技能」離れが懸念される中、平成25年度に厚生労働省の委託事業として「若年技能者人材育成支援等事業」が創設されました。

本事業の目的は、技能労働者の地位向上を図り、若者が進んで技能者を目指す環境整備をするために、地域の技能振興事業や「ものづくりマイスター制度」を展開しています。

「ものづくりマイスター制度」では、技能尊重気運の醸成、若年技能者の人材育成・確保を図るため、建設系及び製造系の職種について、優れた技能と経験を有した熟練技能者を「厚生労働省ものづくりマイスター」（以下、「ものづくりマイスター」）として認定し、中小企業や学校等において広く実技指導等を行い、産業活動の基礎となる若年技能者の育成を支援しています。

今回、中小企業に対し「ものづくりマイスター」を派遣した実技指導の中から10事例を取りまとめ、平成30年度版『ものづくりマイスター活用好事例集（中小企業編）』を作成いたしました。

当冊子は、ものづくりマイスターを受け入れた中小企業等の担当者、受講者及びものづくりマイスターの方々に「ものづくりマイスター制度」の活用とその効果について取材し、好事例としてご紹介しています。

中小企業等において、「ものづくりマイスター」の受入れを検討する際にご活用いただければ幸いです。

当冊子の作成に当たり、ご多忙の中、取材にご協力いただきました関係の方々に対し、誌面を借りて厚く御礼申し上げます。

平成30年11月
中央技能振興センター

目次

CONTENTS

CASE 01 P4

建築板金

宮城県 / クラシタス株式会社

CASE 02 P8

電気機器組立て

福島県 / 株式会社新生テクノ

CASE 03 P12

機械検査

群馬県 / 清国産業株式会社

CASE 04 P16

パン製造

富山県 / Boulangerie る・ふつくらん

CASE 05 P20

広告美術仕上げ

和歌山県 / 日鐵住金
ビジネスサービス和歌山株式会社

CASE 06 P24

タイル張り

岡山県 / 岡山タイル技能士会

CASE 07 P28

機械加工

徳島県 / 四国工業株式会社

CASE 08 P32

家具製作

香川県 / 有限会社藤田木工所

CASE 09 P36

電気溶接

福岡県 / 福岡給油施設株式会社

CASE 10 P40

とび

宮崎県 / 宮崎県鳶技能士会

P44 厚生労働省「ものづくりマイスター制度」のご案内

P46 厚生労働省「ITマスター」のご案内

P47 ものづくりマイスター制度 オフィシャルサイト
「ものづくりマイスター・ITマスター データベース」

※各事例のデータ等は、いずれも取材時点のものです。

「私たちが、〈ものづくりマイスター〉の派遣をお願いした理由。」

新たな技能をたくわえることで、
組織と職人の可能性を広げていきたい。

我々は屋根の施工会社からスタートし、リフォーム工事、そして総合建築へと事業を広げてきました。施工範囲が広がれば、外部のいろいろな職人さんに関わるようになります。その中で「あまり多くの人が施工に絡むと効率が悪くなり、工期も延びてお客様にご迷惑をおかけしてしまう…」と感じました。そこで職人を、「多くの技能をもつ多能工として、自社でイチから育てるべきじゃないか?」との考えにたどり着き、新卒の技能者採用を始めました。もちろん社内だけでも教育はできますが、組織内だけで教え合っているだけでは、いずれ頭打ちになるはず。それに現場からはベテランも定年退職し、本物の手仕事を知る職人も年々減っています。誰かいい指導者はいないものかと悩んでいたときに、このマイスター制度が開始されたことを知りました。「これは使わない手はない!」すぐに相談の連絡をして、現在では「建築板金」のほかに、「建築大工」の2名のマイスターによる指導を受けています。ここ数年の間に、技能検定の1級、2級の合格者も出るなど、確実に技能レベルは上がっています。



クラシタス 株式会社
代表取締役社長 廣中聡さん

■ 実施したカリキュラム

指導の概要

実施回数：11回 受講者数：3名
実施場所：クラシタス株式会社 本社内



■ プログラム内容

- 1回目 板金作業の基本(材料の特性・道具の使い方)
- 2回目 図面の読み方/展開図の作成/板取り・切断
- 3回目 展開図の作成/板取り/道具の使い方1(課題の自習)
- 4回目 展開図の作成/板取り/道具の使い方2(個別評価と指導)
- 5回目 展開図の作成/板取り/組立て/仕上げ/道具の使い方1(課題の自習)
- 6回目 展開図の作成/板取り/組立て/仕上げ/道具の使い方2(個別評価と指導)
- 7回目 展開図の作成/板取り/組立て/仕上げ/道具の応用1
- 8回目 展開図の作成/板取り/組立て/仕上げ/道具の応用2
- 9回目 展開図の作成/板取り/組立て/仕上げ/道具の応用3
- 10回目 展開図の作成/板取り/組立て/仕上げ/道具の応用4
- 11回目 展開図の作成/板取り/組立て/仕上げ/道具の応用5



■ 教育プログラムの解説

「人間の手を、最高の道具にする」を合言葉に、大友マイスターと技能振興コーナーとともに、綿密なプログラムを考案。実技指導は毎月1回土曜日に集約し、午前には各々の課題に取り組んでもらう自習時間に。午後はマイスターがその成果物を見ながら指導する時間に。自らの弱点を把握し、重点的に克服することで、限られた時間の中で大きな効果が得られています。さらに多能工化をめざすため、1年を前半・後半に分けて「建築板金」と「建築大工」を学ぶプログラム編成です。

ものづくり企業として、前へ進むために。
つくり手、一人ひとりが進化しよう。

事業の広がりとともに、より多くの技能が求められるようになった、クラシタス株式会社。分業と多能工で二極化する時代において、クラシタスを選んだのは後者の道。ものづくり企業として、これからも成長を続けていくために、マイスターの力を借り、新たな技能の体得に挑みます。

■ ものづくりマイスター派遣先企業

■ クラシタス 株式会社

所在地	宮城県仙台市若林区卸町1-2-6	従業員数	110名
事業内容	住宅・マンションの総合リフォーム、 リノベーション/住宅の新築工事/ 住宅の売買仲介	設立年	平成2年
		資本金	5000万円



座談会
INTERVIEW

ものづくりマスター × 若手技能者
「実技指導を通して、こんなことを学びました。」

ものづくりマスター（写真_中央）

大友 正市さん

昭和15年生まれ
昭和44年度 職業訓練指導員免許「板金工」取得
昭和46年度 1級技能士「建築板金(内外装板金作業)」取得
平成25年度 厚生労働省 ものづくりマスター「建築板金」認定

現場での60年近い経験を誇る建築板金のスペシャリスト。自らは叩き上げて学んできているものの、そこには執着せずに、「今の時代に合わせて、楽しさの中に厳しさがある、笑顔のある指導」を掲げる。温かな人柄と的確なアドバイスで、若い職人たちをゴールへ導く。



受講した若手技能者（写真_左）

関本 政和さん | 平成14年入社

平成29年度 1級技能士「建築板金」取得
マスターの指導と、忙しい中でも練習を怠らない努力で、見事に技能検定の1級に合格。工事部の主任として後輩の育成に燃える現場のリーダー。次は、建築大工の技能を究める。

受講した若手技能者（写真_右）

横山 二仁さん | 平成30年入社

多能工である父を目標に、ものづくりの世界へ。農業高校出身(実は関本さんも同校の出身)であり、まったくの未経験からチャレンジする。今はただ黙々と技能向上をめざし、練習に明け暮れる。

小手先では意味がない。
“考える力を養う”指導を。

大友さん 今回の現場は、既成品を取り付ける作業がメイン。便利で時間短縮にはなっているものの、職人の力を身につける機会が減っています。技能とは、「図面を読む、寸法を正確に測る、道具を手のように扱う」、そういった自らが工夫しながら考えていくことで磨かれていくものです。

関本さん 今回の指導を受けて、おっしゃることを実感しました。いつもだったら機械を使って一発で曲げられるものが、道具を使った手加工で曲げていくと歪みが出てしまう。いかに日頃から機械に頼っているかがわかりました。

横山さん 私はまだ何もわからないので、すべてが新鮮でした。でも、はさみで板金を切ることさえ、上手いかないなんで…。最初のうちはあまりの難しさに、心が折れそうでした(笑)。

大友さん 職人という手先を使う技術力にばかり目がいきますが、大事なものはその先にある。技と知識をどう使うか、自分の頭で考える力がついてこそ、本物の技能になるんじゃないかと思う

んです。

関本さん 実技指導はそういう構成になっていますもんね。まずは課題に対して、自分なりの工夫をして取り組んでみる。それが合っているかどうかを、大友マスターのフィードバックで確認し、また自分なりの工夫をしてみる。この繰り返しで、だいたいが実力がついていっています。



マスターの引き出しで、
“楽しさ”を引き出してあげる。

大友さん ちょっと乱暴な言い方ですが、必死で食らいついて努力さえすれば、技能検定などの資格は取れるかもしれませんが、でもそこがゴールじゃない。あくまでも技能を身につけるのは手段のひとつ。みんながこの仕事を楽しん

でくれて、この先もずっと続けていってくれることが、本当のゴールだと思っています。

横山さん 大友マスターは、私の悪い部分と良い部分を教えてくれるので助かります。自分のクセがわかれば、次にどうしていけばいいかが見える。次の日からでも、すぐに現場で活かせるのが嬉しいです。

関本さん あたりまえかもしれないけど、マスターの所作一つひとつにはムダがない。自分が時間をかけてしまうことを、いとも簡単に仕上げる。この一連の動きを、直に目の前で見られるのが、なによりも価値のあることなんじゃないかなと。



努力さえすれば、技能は手に入る。
その力を、どう活かしていくかを考えよう。

大友さん 同じ時間を共有しないと、伝えられないことってたくさんある。まずは教える側の人間が、みんなの技能レベルや性格などを正しく理解しないと。そのうえで、「この子が板金の仕事を好きになってくれるには、どう教えればいいか」を考える。技を伝えるのではなく、全員のやる気を引き出すのが、マスターの役目なんじゃないでしょうか。

“自信”という最大の武器を
自らの努力で手にしてほしい。

大友さん 若手のみなさんが、この仕事をより好きになれる方法のひとつとして、やっぱり技能検定などに挑むのもいいですね。努力が報われる、誰かに認められる、これが嬉しくない人なん

ていないですから。
関本さん 思っていた以上に、仕事と勉強を両立させていくのは大変ですね。だいたいが苦労しましたよ、1回落ちましたね…(笑)。でもそれを乗り越えて、技能検定の1級に合格できたことで、明らかに責任感と自信が生まれました。だって自分から「1級建築板金技能士」といった名刺をお客様に渡しておきながら、汚い仕事なんて恥ずかしくてできません。

大友さん 職人のプライドって、そういうもの。自らを自らが高め、常に上へ上へとめざしていきましょう。横山さんの目標は何か？

横山さん 先輩の名刺、やっぱり羨ましいです。私はまだ実務経験が足りませんが、条件を満たしたら、まずは2級取得に挑みます！

大友さん 成長をいちばん加速させるのは、“自信”という力。この最大の武器を手に入れるためには、苦しい修行期間が必要になります。私にできることは、息の詰まるような日々を、どうやったら若手のみなさんに楽しんでもらえるか工夫すること。私もマスターとして、まだまだ鍛錬しなきゃいけないね。



電気機器組立て

技能をマイスターに学ぶ



ものづくりの明日を担う。
次世代の若者たちに、技能を託す。

福島県いわき市で長年、制御盤などの電気の製造を営む株式会社 新生テクノ。その技能の高さには定評があり、国内有数の大手電機メーカーから支持されています。ものづくりマイスター制度を導入後、現場にどのような変化が生まれたのか、“未来のものづくりマイスター”に、お話を伺いました。

ものづくりマイスター派遣先企業

株式会社 新生テクノ

所在地 福島県いわき市好間工業団地16-16
事業内容 電気工事業

従業員数 48名
設立年 平成13年
資本金 1000万円



テーマ

会社全体の技能の向上。教えあう文化の醸成。

「私たちが、〈ものづくりマイスター〉の派遣をお願いした理由。」

会社全体の技能の向上は、
社外へのアピールにもつながる。

当社に所属するエンジニアの多くが、未経験から新卒で入社したメンバーばかり。会社全体の技能の向上は、重点テーマとなっていました。技能を高め、資格を取得することができれば、社外に対して自社の技術力をアピールする手段にもなる。資格取得に対しても、社を挙げて積極的に取り組んでいたところでした。外部の方から指導をいただいて、技能検定2級は全員が取得していたのですが、1級の取得者はゼロ。さらに技能のレベルを上げる方法を模索していたときに出会ったのが、ものづくりマイスター制度です。当社のような中小企業にとって、研修にかけられる時間や費用には、限界があります。そういった意味で、ものづくりマイスター制度は、当社のニーズに合致していました。今回ご指導をいただいたことで、技能検定1級の合格者も輩出。全社のモチベーションも高まり、以前にも増して技能をお互いに教えあう文化が根づいています。



株式会社 新生テクノ
取締役工事長 本間勇司さん

実施したカリキュラム

指導の概要

実施回数：3回 受講者数：2名
実施場所：株式会社新生テクノ 本社内



プログラム内容

- 1回目 検定1級用の練習機材を使った実技指導1
- 2回目 検定1級用の練習機材を使った実技指導2
- 3回目 検定1級用の練習機材を使った実技指導3


教育プログラムの解説

技能検定1級の課題をもとに、一つひとつの作業手順、作業内容の詳細、出来栄をチェックしながら指導を行いました。特に重視したのは、外観の仕上がりです。技能の高さは、仕上がりの美しさに現れるもの。細部に到るまで技能を高めるために、その場ですぐにフィードバックしながら、OJTに近い実践的な指導を行いました。また、工程ごとに時間を計測し、作業時間の短縮も図りました。

座談会
INTERVIEW

ものづくりマスター × 若手技能者
「実技指導を通して、こんなことを学びました。」

ものづくりマスター（写真_右から2番目）

大内 洋司さん

昭和34年生まれ
平成24年度 特級技能士「電気機器組立て」取得
平成29年度 厚生労働省 ものづくりマスター「電気機器組立て」認定

市内の高校を卒業後、制御盤の一貫生産を行う高橋電機株式会社へ。入社以来、電気機器の組立て、製造に携わる。所属会社では、現役の副工場長を務める。

受講した若手技能者（写真_右）

一ノ瀬 翔さん | 平成18年入社

市内の工業高校出身。高校では建築を学んでいた。ものづくりに携わりたいと思い、高校卒業と同時に、新生テクノへ。1級技能士。

受講した若手技能者（写真_左）

井丸 和明さん | 平成19年入社

普通科の高校を卒業後、新生テクノに入社。大工だった父の影響で、幼い頃からものづくりに憧れを持つ。2級技能士。

技能は、細部に宿る。

大内さん 今回指導にあたって、新生テクノの皆さんの技能のレベルは、非常に高いと感じました。皆さん、非常にきれいな配線をしている。エンジニアが全員、技能検定2級を取得されていると聞いて納得しました。私が教えなくてもいいんじゃないかと、はじめは思ったくらい(笑)。ただ、さらに技能のレベルを上げたいというお話だったので、外観の仕上がりに影響する細部について、指導をさせていただきました。

一ノ瀬さん 今回指導をいただいて、たく

さん発見がありました。例えば、何気なく部品の銘板の上に配線を通していたところを指摘していただいて、よりよい配線を意識するようになったり。はんだの量や、コテの当て方なども、これまでやっていた方法と違うやり方を教えていただいたり。非常にためになりましたね。

井丸さん 自分の理解では少し曖昧だった部分も指摘していただいて、基本的な技能をイチから勉強できたと思います。電線を束ねる結束バンドの区間や縛り具合など、細かなところまで指導していただいたのはありがたかったです。



「次はもっと」という飽くなき向上心。

一ノ瀬さん 私自身、入社してから10年余り経っているので、新人の頃に比べ、先輩から指導を受ける機会が減っていました。大内マスターに指摘してもらうことで、自分自身の技能を改めて見直すことができたと思います。指摘をいただく度に、「次は、もっとうまくやろう」という気持ちが湧いてきて、実技指導は毎回楽しみでした。

井丸さん やはり外部の方に見ただくと、モチベーションは上がりますね。私も「もっときれいにやろう」という気持ちが自然と高まりました。

大内さん 普段、自社のメンバーに技能の指導をすることはありますが、他社の方に指導するのは今回が初めてで



ものづくりマスターから、
未来の、ものづくりマスターへ。

した。最初はどのように伝えたらいいか、色々考えました。2人とも非常に素直で熱心。真面目に取り組んでいただけたので、私自身、とても楽しく指導に当たることができました。



未来の、ものづくりマスター。

井丸さん 今回指導を受けたことで、製品に対してきれいに仕上げようという気持ちが、以前より強くなりました。時間をかけすぎずに作業の精度をあげることは、今後も心がけていきたいと思っています。

一ノ瀬さん 大内マスターの指導を受け、技能のレベルを高めることができたと思います。おかげさまで、1級技能者の肩書きもつきました。これからは、私が後輩に対して指導をしていく立場。大内マスターに教えてもらったことを、同じように後輩にも伝えていきます。

大内さん 新生テクノさんは、お互いに

教えあう文化があるところが素晴らしいですね。人に教えることも、自身の技能を高めることにつながりますから。電気機器組立ては、量産が効かない技能。AIやIoT化がどんなに進んでも、ものづくりにおいて人、そして技能の重要性は変わりません。2人にも、ぜひ今後も技能の向上に努めていただきたい。ゆくゆくは、ものづくりマスターとして活躍いただけたらいいと思います。

「私たちが、〈ものづくりマイスター〉の派遣をお願いした理由。」

事業成長に直結する、人材育成。
その軸となるのが、マイスター制度。

清国グループの創業は昭和39年。金属プレス加工を得意とするものづくりメーカーです。その中で私たち清国産業が担っているのは、すべての軸となる人材育成。世界で闘える人材を自社で育てていくために、平成17年頃から本格的に新卒採用を始めました。そして、より質の高い新人教育を模索するなかで出会ったのが、「ものづくりマイスター制度」でした。なかなか弊社のベテラン技能者も忙しく、研修に時間を割くのが難しい状況…。研修講師の適任者を見つけるのに苦労していた時に、神澤マイスターをご紹介いただきました。神澤マイスターは同業の大手企業に長年勤めていた、この業界の大ベテラン。検査機器の基本的な扱い方はもちろん、うちの若い子たちに、現場で生きる豊富な知恵を授けていただいております。社外の方だからこそ、客観的なアドバイスをいただけるので助かりますね。今では、私たちの新入社員研修に欠かすことができない、先生といった存在です。



清国産業 株式会社
総務部 リーダー 山崎仁さん

■ 実施したカリキュラム

指導の概要

実施回数：7回(前期3回/後期4回) 受講者数：6名
実施場所：清国産業株式会社 本社内



■ プログラム内容

- | 前期 | 1回目 | ものづくりに携わるうえでの心得 |
|----|-----|----------------------|
| | 2回目 | 計測器などを使用した実習。基本的な扱い方 |
| | 3回目 | 業務に関わる製品を用いた実践的な計測 |
| 後期 | 1回目 | 前期のプログラム内容の復習 |
| | 2回目 | 業務に関わる製品を用いた実践的な計測 |
| | 3回目 | 技能検定の内容を踏まえた実習 |
| | 4回目 | 技能検定の内容を踏まえた実習 |

💡 教育プログラムの解説

正確なデータを測定できる必要性を、しっかりと理解してもらうことが大きなテーマ。前期は、新人研修としての指導。社会人としてのマナーや考え方の指導から始まります。次に、ノギス、マイクロメータ、ハイトゲージ、ダイヤルゲージ、シリンダーゲージなどといった、測定器の基本的な扱い方を、実習を通して学んでいきます。後期の指導は、技能検定3級の課題をベースにした、より実践的なプログラムを実施しています。

マイスターの生きた知恵を、
新入社員研修へ取り入れる意義。

半世紀以上の歴史をもつ清国グループ。今後はよりグローバルな展開を視野に入れた成長戦略のもと、十数年前からは新卒採用にも注力しています。そんな同社が目をつけたのは、この〈ものづくりマイスター制度〉。外部の技能者に指導を仰ぐことのメリットとは何か？実例を通してご紹介していきます。

ものづくりマイスター派遣先企業

■ 清国産業 株式会社(清国グループ)

所在地	群馬県太田市清原町13-16	従業員数	グループ連結4,638名
事業内容	グループ生産拠点の管理、営業・技術部門の統括/金属プレス加工全般/量産、試作板金加工全般/金属プレス金型、治工具製作/グループ企業内の人材育成支援	設立年	昭和39年
		資本金	5,000万円



座談会
INTERVIEWものづくりマスター × 若手技能者
「実技指導を通して、こんなことを学びました。」

ものづくりマスター (写真_右)

神澤 孝治さん

昭和29年生まれ
平成4年度 1級技能士「機械検査(機械検査作業)」取得
平成13年度 特級技能士「機械検査」取得
平成26年度 厚生労働省 ものづくりマスター「機械検査」認定

長年、大手企業の製造業務に従事。定年退職の2年前から経験を生かし、現場で培った知識と技能を、次の世代へと継承している。同社のほかにも、マスターとして複数の企業と高等学校などに実技指導を行う。

まずは職業人としての
土台づくりから。

神澤さん 私は47年の間、製造現場で働いてきました。せっかくこの世界に入ったみなさんにも、長く続けていってほしい。その思いから、マスターを始めました。なので表面的な技術だけではなく、仕事をするうえで一番大切な心構えについてから教えます。例えば、あいさつといった礼節、社会人として必要な知識、人間関係の重要さといったところです。

丸橋さん 研修というと、技術を学ぶ場というイメージがあったので新鮮でした。人生経験豊富な神澤マスター

の言葉は、優しくも重みがあります。僕は人とのコミュニケーションがあまり得意な方ではなかったので、自分を改めようと思いました。

滝田さん これまで学校では、同年代としか話をしたことがなかったので。現場研修に行った時にも、いろいろな年代の人たちが連携して作業を進めていました。特にトラブルが起きた時に、どう対処していくか?という話が参考になりましたね。

神澤さん 私のように社外の者だからこそ、人間関係の話なども客観的に伝えられると思うんですよ。そういった社会人としての土台となる話をしています。

受講した若手技能者 (写真_左)

丸橋 優也さん | 平成30年入社

入社してまだ数ヶ月程度で、現在は研修で各現場を回る。学校では、電気系を学んでいた。将来は技能者として、海外で活躍するのが夢。

受講した若手技能者 (写真_中央)

滝田 若菜さん | 平成30年入社

同じく、新卒入社同期で、現在は研修中。ものづくりがしたいという思いから、商業高校から入社。知識はほとんどゼロからのスタート。

現場では知ることのない、
細かい部分まで、丁寧に伝える。

滝田さん 私は商業出身なので、知識はゼロ。マイクロゲージやノギスと言われてもさっぱり…。そんな私にもわかるように、測定器の扱い方から、細かい部品の名称まで、丁寧に教えてくれます。おかげで工業製品自体にも、興味がわいてきました。

神澤さん 現場に出る前に、正しい知識を身につけたほうがいいですからね。精度の高いものづくりに欠かせない測定方法の基礎を、身につけます。まずは「1ミクロンってどれくらいなんだっけ?」というのを考えてもらい、「じゃあ機械を使ってみて、その差ってどのくらいなのか?」というのを肌で実感してもらおう。見るだけじゃわからないので、デモンストレーションをしたあとに、自分の



新入社員を、どのように育成するか。



この仕事で、末永く活躍してほしいから。
仕事場では教えられないことを、伝えていきたい。

手で測定器にさわって体感していきます。

丸橋さん 測定器のコツを掴まないと、まったく正確な数値が出ません。正しい扱い方を知らずにやるのは、こんなに効率が悪いんだと知りました。早く学んだことを、このあとの研修先で実践してみたいですね。

正しく測るのは、技術。
技を身につけた状態が、技能。

神澤さん 正しく測るのは、技術。それを身につけた状態が、技能だと思うんです。後半の実習では、いろいろな製品を使って計測をします。まずは、正確な数値が出るようになるまで、測定方法を体に覚えさせます。その次に、スピードを求めていく。「まずは正確な技能を。速さはそのあとに。」それを間違えてはいけません。なぜなら企業として、正しい検査結果を出さないと、信頼関係が大きく崩れてしまう。効率化ばかり言われる世の中でも、やはり大事なことは嘘のないこと。正しい技能を身につけることなんです。

丸橋さん 今回習っているのは、基礎中の基礎ですけど。それでも上手くできません…。先生は一つ一つの所作が美しく、手際がいい。すべてが簡単そうに見える。やっぱり長年の積み重ねが大事なんだあ、と。

滝田さん その気持ち、すごくわかるな…。まだまだわからないことだらけですが、基礎を身につけたうえで、次は技能検定などにもチャレンジしたいですね。

神澤さん そうだね。ぜひ、鍛錬をたのしんでください。そしていつかみんなが、海外で活躍する技能者になり、世界へ羽ばたいてほしいなと思います。

「私たちが、〈ものづくりマイスター〉の派遣をお願いした理由。」

ここで修業を積んで、自立してほしい。
若者たちの夢がふくらむパン屋さんになりたい。

障がいをもつ人たちと一緒にパンづくりを通じて働く。“働くことで、世の中に必要とされる存在であることの大切さ”を知り、そこから得た収入で、自立を目指してほしい。その想いで、お店をオープンしました。今回、実技指導を受けてもらったスタッフもそれぞれ障がいを抱えながら、自分の望むような暮らしを目指しています。そんな彼らがここで技能を身につけ、社会的に自立を目指してほしい。いつかは〈る・ふっくらん〉を卒業して、もっと大きなパン屋さん勤めたり、自分のお店をもてるようになったら嬉しいですね。マイスター制度を活用させていただいたのも、この夢を叶えるためです。宮腰マイスターを知ったのは、たまたまTVでの特集を観たのがきっかけ。「まだまだ手の遅いうちの若者たちだけど、伸びしろがある。プロの技能を知り、もっと早く美しくできるよう教えてもらいたい！」その気持ちが抑えきれず、すぐに宮腰さんのお店に足を運びました。そこで宮腰マイスターからマイスター制度を教えてください、今回の実技指導が実現しました。初めは苦勞もありましたが、マイスターの教えを守り、ひたむきに練習を続けてくれた受講生たち。指導を終えた今は、技能検定を目指し、積極的にいろいろなことにチャレンジしてくれています。



る・ふっくらん
代表 平井かおるさん

■ 実施したカリキュラム

指導の概要

実施回数：20回 受講者数：3名
実施場所：る・ふっくらん店内 製造場

■ プログラム内容

1回目	ミキシング1	11回目	成形3
2回目	ミキシング2	12回目	成形4
3回目	ミキシング3	13回目	ハード系のパン製造1
4回目	ミキシング4	14回目	ハード系のパン製造2
5回目	分割1	15回目	ハード系のパン製造3
6回目	分割2	16回目	ハード系のパン製造4
7回目	分割3	17回目	ハード系のパン製造5
8回目	分割4	18回目	ハード系のパン製造6
9回目	成形1	19回目	食パン製造1
10回目	成形2	20回目	食パン製造2



■ 教育プログラムの解説

宮腰マイスターが掲げるおいしいパンをつくる三原則が「正しい計量」・「適切な温度設定」・「緻密な時間管理」。これらの基礎的な知識を頭に入れつつ、さまざまな技能を学んでいきました。全20回の実技指導で、『る・ふっくらん』では販売していないハード系のパンを中心に、約20種類ものパンづくりを習得。正確かつスピーディーに作業できるようになり、マイスターからの教えが、日常業務に活かされています。

街いちばんのパン屋さんを目指し、
“日本一の技”をマイスターから吸収する。

大豆の呉汁(ごじる)を使った、健康的でおいしいパンを提供する『る・ふっくらん』。さらなる商品ラインナップの充実と生産性の向上をめざし、日本トップクラスのパン職人・宮腰マイスターを招聘。卓越したパンづくりの技能を学ばせることで、ここで働く若者たちの未来を応援します。

■ ものづくりマイスター派遣先企業

■ Boulangerie る・ふっくらん

所在地 富山県射水市八塚282-8 従業員数 5名
事業内容 食料品店/パン・菓子製造 設立年 平成28年
資本金 500万円



座談会
INTERVIEWものづくりマスター × 若手技能者
「実技指導を通して、こんなことを学びました。」

ものづくりマスター(写真_右)

宮腰 進さん

昭和25年生まれ
平成8年度 特級技能士「パン製造」取得
平成29年度 厚生労働省 ものづくりマスター「パン製造」認定

東京で30年ほどベーカリーを営んだあと、地元富山で『越中岩瀬 ベーカリーみや』を開業。(ベーカリージャパンカップ 食パン部門)で優勝するなど、過去に受賞歴多数。「パンづくりで若者を応援したい」という、平井オーナーの想いに賛同した。

新しい技能と知識で、
お店の未来をつくってほしい。**宮腰さん** マスターとして教えるきっかけは、オーナーの平井さんがうちの店舗にいらっしゃったのが始まりです。「うちの子たちに、ぜひ本物のパンづくりを教えてください」と頭を下げられ、なんて情熱的な方なんだらうと驚きました。こんな社員想いのオーナーさんのもとの働けるおふたりは、恵まれていますね。**廣田さん** 僕は未経験から採用してもらいました。手先も器用ではないので、こういう機会をいただけて本当に助かっています。**宮腰さん** パン職人としてまだひよこですし、大変だったでしょう。でも、すごく真面目で頑張りやさん。私もはりきって、全部で20種類くらいのパンづくりを教えました。**黒田さん** はじめは上手くいなくて苦勞しました。特に『パン・ド・ロデヴ(※フランスパンの一種)』をつくる時は、もう手にひっついちゃって…。**宮腰さん** ああ、『パン・ド・ロデヴ』ね。一流のパン職人でもつくるのが難しいパンだから。水分量が95%以上の超多加水パンだから、生地がねちょねちょ。私もはじめは、「もう二度とつくりたくない…」と思っただけです(笑)。その代わり、世界でいちばん美味しいと思えるパンなんです。今回、教えたパンのラインナップは、「1.まだお店にない商品」。そして、「2.地域のお客さんから愛されるパン」。この2つを覚えてもらったことで、お店の未来につながると信じています。パンは、“育てる”ものづくり。
つくり手も、向上心を忘れずに。**宮腰さん** パンづくりは、ちょっと特殊なものづくり。イースト菌を発酵させるなど、“育てる”という作業が入ってきます。これは、季節やその日の天候などによっても左右される。状況に応じて適切な判断ができるように、技能だけではなく、計量・温度・時間管理といった部分まで指導しました。

受講した若手技能者(写真_左)

廣田 卓哉さん | 平成28年入社

入社してもうすぐ2年ながら、計量やミキシングなど生地作りをメインに成形もこなす。生地のバリエーション増を目指し、お店の成長に貢献する。

受講した若手技能者(写真_中央)

黒田 雄一さん | 平成29年入社

寡黙で職人気質。手先が器用なので、細かい仕上げの仕事を中心に担当する。調理パンの成形を中心に、難しい作業に意欲を燃やす。

**廣田さん** 僕の場合は、カタチづくだけで精一杯。さらに知識面でも覚えることがたくさんあって、頭の中を整理するのも大変です…。けれど、教えてもらったことを実践してみて、美味しいパンができると、その苦勞もすっと飛んでいきます。**宮腰さん** そりゃあ、普通は3年から5年かけて、ようやく基礎がわかるものだからね。でもいつかは通らないといけない道。はじめに苦勞しておいたほうがいいよ。一年前よりも、いい顔つきになったもんね。**廣田さん** もっと美味しいパンをつかって、お客さんに喜ばれるようになりたい。今はまだ上手くいきませんが、ゆくゆくは新商品もつくりたいです。**宮腰さん** そのためには、常に勉強しつづけることが大事。技能だけではなく、原材料はどんな性質か？パンの

テーマ

パンづくりで、人と街を応援する。

大手のパン製造メーカーに、
小さな街のパン屋さんが勝つ方法。

製法は他にどんなものがあるか？どうしたら売れるのか？といったことまでを考えてほしい。将来的には、「自分のパン屋さんを出すんだ！」くらいの気持ちをもってほしいですね。

“美味しいパン”の条件を
知っていますか？**宮腰さん** ここでひとつ質問。お客さんに「パンをいちばん美味しく食べてもらう方法」ってわかりますか？**黒田さん** どうでしょう。自分で働いてみて、あらためて「焼きたては、特別だなあ」と思いました。**宮腰さん** そのとおり！パンがいちば

ん美味しい瞬間は、焼きたてです。大手製造メーカーのパンは、ぴしっと管理されている質のいいパン。街の小さなパン屋さんは、ムラのない品質や生産性では勝てっこない。でもね、僕らのパンには手づくりの温もりがある。焼きたて、揚げたてのパンを、お客さんに提供できる。これはどんなものにも勝る。僕たち街のパン屋さんは、そこで勝負しないといけない。

黒田さん やっぱり、自分のパンをお客さんが美味しいと言ってくれるのは、何よりもいちばん嬉しいです。**宮腰さん** かれこれ40年近くパン職人をやっていますが、私もいまだに同じ気持ち。「しあわせはパンのある台所から

という信念が、私を支えています。香りが、味が、食感が、きっと人を笑顔にする。おふたりもそれを抛り所にして、今はとにかく美味しいパンを、ていねいに早く作れるように頑張ってください。これからの活躍に、とても期待しています。



「私たちが、〈ものづくりマイスター〉の派遣をお願いした理由。」

ベテランマイスターの指導により、
技能の向上だけでなく、現場の士気も向上。

「広告美術仕上げ」を行う広告課に所属するメンバーのほとんどが60代。在籍する従業員は新日鐵グループのOBが大半を占め、30代の若手世代の育成が急務でした。「広告美術仕上げ」は、パソコンで行う作業の他、手書きで書かれた古い看板を新たにリニューアルする際など、職人の勘やコツが問われる手作業が多く、専門の技能が必要になります。また、近年では求められるクオリティ、スピード感など、業務のレベルが上がっており、難易度が高くなっていると感じていました。一方で、資格のある技能者の高齢化も進んでおり、どのように若手に技能を継承すべきか悩んでいた時にマイスター制度と出会いました。今回来ていただいた中井マイスターは、この道何十年という大ベテラン。私自身も、講義の内容を聞いて、非常に勉強になりました。受講したメンバーからは、自分のレベルをさらに上げたいという前向きな声が上がっており、技能の向上だけでなく、現場の士気向上にもつながっています。



日鐵住金ビジネスサービスと歌山株式会社
業務部広告課 課長 坂田耕一さん

技能者の高齢化が進む今、
若手世代に技能を伝えたい。

新日鐵住金株式会社と歌山製鉄所の構内に併設する日鐵住金ビジネスサービスと歌山株式会社。敷地内の緑地管理、社宅管理、公園管理や印刷業務など様々なサービスを提供しています。なかでも、構内にある工場において使用される看板の製作を行う技能者の育成が急務となっていました。

ものづくりマイスター派遣先企業

■ 日鐵住金ビジネスサービスと歌山 株式会社

所在地	和歌山県和歌山市湊1850	従業員数	432名 (NSB:351名+NSHS:81名)
事業内容	緑地管理、社宅管理、公園管理、印刷業務、クリーニング、広告美術、他	設立年	昭和49年
		資本金	3000万円



■ 実施したカリキュラム

指導の概要

実施回数：5回 受講者数：2名
実施場所：日鐵住金ビジネスサービスと歌山株式会社 本社内

プログラム内容

- 1回目 広告美術の作業概要説明、カットニング指導
- 2回目 絵図・文字のカットニング指導、拡大方法の指導
- 3回目 カットの仕方、拡大方法の指導、レイアウトの仕方
- 4回目 カットニング指導、作業工程指導、拡大方法指導、課題完遂に向けた指導
- 5回目 カットニング指導、貼付け指導、時間短縮への挑戦、繰り返し練習の指導



教育プログラムの解説

特に重点的に指導が行われたのは、作業時間を短縮するための技法。マンツーマンで正確かつスピーディーに作業を行うコツについて指導を受けます。ベースになったのは、技能検定2級の課題。特に難しいカットニングの作業、拡大の作業は、繰り返し練習を行い、作業の工程や仕上がりをマイスターにチェックしてもらいながら、不得意な領域を克服していきます。毎回、次週までの宿題に取り組むことで、予習・復習を促しました。

座談会
INTERVIEW

ものづくりマスター × 若手技能者
「実技指導を通して、こんなことを学びました。」

ものづくりマスター (写真_中央)

中井 義宣さん

昭和21年生まれ
平成2年度 1級技能士「広告美術仕上げ(広告面粘着シート仕上げ作業)」取得
平成25年度 厚生労働省 ものづくりマスター「広告美術仕上げ」認定

看板や標識の製作に従事し、現在は「なかい工芸」の代表取締役社長を務める。長年の功績が称えられ、平成28年、春の叙勲受章者に選ばれる。マスターとして、同社のほか、和歌山県内の高校への指導にもあたる。

受講した若手技能者 (写真_左)

山口 恭伸さん | 平成27年入社

父が構内で働いていたことから、同社に入社。現在は、現場で実践を積み、昨年度、技能検定3級に合格。今年は、2級に挑戦予定。

受講した若手技能者 (写真_右)

楠見 浩朗さん | 平成29年入社

山口さん同様、未経験からのスタート。昨年度、山口さんとともに技能検定3級に合格。いずれは1級の取得が目標。

教材だけでは学べない。
手作業のコツ。

中井さん 看板に貼る文字は、最近ではコンピューターでカットすることが多くなりました。それでも、手作業でカットする必要が多い現場も、まだまだあります。この手作業の指導は、非常に難しいところ。特に、カットと拡大の作業は皆さん苦勞するので、今回はそこを重点的に指導しました。

楠見さん 私自身は現場でシルクスクリーン印刷をやっていたので、切り文字を一から手で切っていく作業を経験したのは初めて。いい経験になりました。

山口さん パソコンでの作業が多いため、自分の手でカットする経験に乏しく、教材を使って学ぶにも、なかなか勘どころをつかむのが難しかったです。教えて頂いたことで、少し自信がつかまりました。



目で見て、手を動かして
体で覚える。その繰り返し。

中井さん 職人というのは、人の技を目で見て、盗んで、自分のものにする。自分で力をつけるには、鍛錬の繰り返し。そういった意味で、今回は週一回の講習だけでなく宿題にも取り組んでいただき、何度も繰り返し勉強してもらった方がいい機会だったと思います。

山口さん 機械に頼っていると、実践では使い物にならないこともあります。例えば、昔の看板のフォントがパソコンにないときは、看板をヒントに自分で文字を作らないといけない。拡大、カットの作業を中井マスターから教えてもらったので、実際の現場でも対応ができました。

中井さん 一文字、一文字、自分の手で写し取って、自分の手でフィルムを切ることで、自然と文字の形を体で覚えるんです。そうすると、貼付け作業の時も文字の形を考えながら無駄なく作業ができるんですよ。早く、キレイに、案にできるのが一番、というのが私のモットー。どんなにいい腕を持っていても、時間がかかっているのは、まだまだ半人前。細かい寸法が決まっていないうちは、自分



の目で見ていい案配で文字を拡大して、切り貼りしていく。見た目が第一ですから。ある程度の感覚を掴むまでは、やはり練習あるのみ。みんなそれぞれ得意、不得意があるので、一人ひとりの得意なところを伸ばすような指導を心がけました。



本当に現場で生きるのは、体で覚えた職人の技。
そのために何度でも、鍛錬を続けていく。

新しい技法、新しい視点を
養うことで技が磨かれる。

山口さん 経験が豊富にあって、看板屋を何社も渡り歩いていたら、「こんな技法があるんだ」と引き出しが増えるけれど、まだまだ経験も浅く、他社の技法を学ぶ機会がありません。中井マスターに教わることで、新たな知識、新たな技法を学ぶことができたのは大きかったです。

楠見さん 自分が当たり前だと思っていた方法が、当たり前じゃなかったり、自分では考えつかないような方法と出会ったり。受講後、実際に仕事においても、作業のスピードが上がったという感覚があります。

中井さん どうしなければいけない、と

いう決まりはないんだけど、いろんな技法を学んで自分にとっていい方法を身につけて欲しいと思います。

山口さん 中井マスターに教えていただいたことを生かして、まずは技能検定2級、ゆくゆくは1級を目指したいですね。

中井さん 職人の数は、年々少なくなっていると感じます。技能継承が進むのは、技能者としてやるせない。私がかつともマスターになろうと思ったのも、自分の技能を伝えることで、日本のものづくりのため、後輩の育成のために少しでも力になれば、という思いから。ぜひ、これからの世代の二人には、技能の鍛錬を続けていって欲しいですね。



「私たちが、〈ものづくりマイスター〉の派遣をお願いした理由。」

岡山県の技能レベルを上げ、
新たなマイスターを輩出したい。

私は約30年もの間、岡山県タイル技能士会に関わってきました。県内のタイル職人の技能向上と情報共有のため、縦横のつながりを密にすべく、これまで取り組んできたわけですが、今後も一層、会の活動に力を注ぐ必要性を感じています。というのも、岡山県はひとり親方で事業を行う職人が多い街。そのため、他の職人と現場が一緒にならない限り、新しい商品情報やそれに関わる技能の習得が遅れてしまいます。そうした懸念を払拭するために技能士会が間に入り、講習会や勉強会を行うことで技能向上に貢献できたらと思っています。また今回の実技指導から近藤マイスターと岡本マイスターに指導してもらいましたが、今後は彼らのような若い世代が積極的に会を引っ張ってくれることを望みます。彼らのような腕の立つマイスターが先頭に立つことで、全体の士気向上につながりますし、彼らに続いて素晴らしいマイスターが岡山に増えると嬉しいですね。



岡山県タイル技能士会
会長 植田和良さん

■ 実施したカリキュラム

指導の概要 | 実施回数：1回 受講者数：28名
実施場所：岡山職業能力開発促進センター



一枚、一枚に、魂を込めて。
次の世代に伝えたい、職人の技と心。

「最近の若い職人は、丁寧さよりもスピードを重視してしまう。それじゃあ、いい家は建ちません」。そう話すのは、岡山県でタイル張りに携わる2人のマイスター、近藤さんと岡本さん。仕事現場で感じている危機感を発端に、岡山県タイル技能士会で実技指導を実施することになりました。職人に大切な技と心を受け継ぐべく、指導にあたります。

ものづくりマイスター派遣先企業

■ 岡山タイル技能士会

所在地 岡山県岡山市南区豊成3丁目24-7-1 | 会員企業数 27社
活動内容 タイル張り技能士の育成 | 設立年 昭和51年



■ プログラム内容

- ・弾性ボンドの適正使用の指導
- ・新タイル材の施工方法の指導

💡 教育プログラムの解説

施工するタイルや使用する接着剤に合わせて、正しい道具の選定を行い、適正な使用方法、施工手順が踏めるように指導。実際のタイルとボンドを使って、注意すべきポイントを解説しながら、実演を交えた指導を行いました。また、受講者に対して、適切な道具の選定と正しい施工をすることの大切さを伝え、意識の向上を図りました。

座談会 INTERVIEW

ものづくりマスター × 若手技能者
「実技指導を通して、こんなことを学びました。」

ものづくりマスター（写真_左）

近藤 賢司さん

昭和42年生まれ
平成15年度 1級技能士「タイル張り(タイル張り作業)」取得
平成29年度 厚生労働省 ものづくりマスター「タイル張り」認定
平成29年度 全技連マスター認定

岡山市で13年間、事業を営むベテラン職人。タイル張りに関して、積極的に情報収拾や技能習得を行っており、造詣が深い。

受講した若手技能者（写真_右から2番目）

山田 尚弥さん | 平成11年生まれ

21歳の若手タイル張り職人。岡山市内でタイル張りの仕事に携わる。佑弥の兄。

自分の弱点を見つめ直し、 正しい技能を身につける場に。

近藤さん みなさん、今日はお疲れ様でした！岡山県タイル技能士会の集まりには何度も参加しているんですが、今回、僕と岡本くんはマスターになってはじめて、指導者として参加させていただきました。28名を集めるのも大変だけど、教えるのも緊張するね。



岡本さん 近藤さん、はじめてにしてはすごく喋りが上手でしたよ(笑)。冗談はさておき、尚弥と佑弥は、僕ら2人と仕事現場で一緒になることも多いけれど、技能士会の実技指導に参加してみて、何か感じたことはある？

山田(尚)さん 近藤さんからも岡本

さんからも、仕事現場でタイル張りの指導をしてもらう機会がありますが、仕事の手を動かしながらや休憩の合間などに教わる人が多いので、今回のようにしっかり時間をとってイチから教えてもらうというのはとても新鮮でしたし、わからない箇所をきっちり補うことができました。

山田(佑)さん 現場では、手とり足とり教わるというよりは、自分で手を動かして試行錯誤しながら仕事を覚えていくことが多い。だからこそ、いつの間にか自己流の方法になってしまい、正しい技能が抜け落ちてしまうことも。今回の実技指導で改めて注意すべき点を認識できました。

基本を大切にすることこそ、 タイル張りの美しさを保つ秘訣。

山田(尚)さん 例えば、弾性ボンドの適正使用方法。ボンドを壁に塗るときは櫛目山の大きなコテを選んで爪をしっかり立てないと、ボンドを均一な厚みに出すことができない。厚みが出せないと、タイルにボンドが付かない“ムラ”

ものづくりマスター（写真_右）

岡本 栄一さん

昭和50年生まれ
平成23年度 1級技能士「タイル張り(タイル張り作業)」取得
平成29年度 厚生労働省 ものづくりマスター「タイル張り」認定

県内で4番目のものづくりマスター認定者。岡山県でタイル張りの事業を営みながら、後進の育成に力を注いでいる。

受講した若手技能者（写真_左から2番目）

山田 佑弥さん | 平成9年生まれ

兄に負けじと、岡山でタイル張りの腕を磨く。技能も伸び盛りの、19歳の若き職人。

ができるため、剥がれやすくなってしまいます。接着剤に応じて、正しい道具を選び、正しい使い方をします。基本ではありますが、改めて勉強になりますね。



岡本さん そうそう、あとはタイルを張った後、上からギュッと押さえつけること。そうしないと施工直後はうまく引っ付いていても、時間が経つと剥がれ落ちてしまう。こうした基本的なポイントを、改めて若い職人には伝えていくことが大切だと思っています。

近藤さん 最近は、接着剤やタイルなど製品自体の性能が向上し、昔よりも手軽にタイルを張れるようになりました。簡単に言えば、手間が減ったんです。その分、早く施工できるし、使用する材料も少なくて済むようになった。それでも、手を抜いてよくなった訳ではあ

正しい道具の使い方、施工方法を学ぶ。



丁寧に、正確に、美しく。 若者よ、“真”のタイル張り職人であれ。

りません。私たちは職人である以上、手仕事に対してお金をもらう“技能士”です。丁寧に、正確に、美しく。いつまでも永続的に、最高の状態で残っているタイル張りを手がけていく必要があると思っています。

手から手へ。 匠の技は受け継がれる。

山田(佑)さん 自分は、職人の世界に入って2年半。覚えることの方が多い身ですが、一つひとつできることが増えていくのは楽しいですね。今はタイル割に悪戦苦闘しているため、次回はその実技指導があると嬉しいですね。

山田(尚)さん 自分は4年半、タイルの

仕事に携わってきましたが、まだまだ半人前。早く一面すべてをひとりで手がけられるようになりたいですね。マスターおふたりの仕事を見ていると、同じ仕事をするにしても手際や美しさが僕らとは雲泥の差です。道のりは長く険しい気もしますが、しっかりと技を身につけて頑張りたいと思います。

近藤さん 岡山のタイル張り職人は、悲しいですが年々減ってきているのが現状です。ただ、僕たちはこの仕事に誇りを持っていますし、このまま衰退して欲しくはありません。若い人に私たちが培ってきた技能を傳承し、タイル張りのやりがいや面白さを伝えていきたい。それが、これからの課題です。

岡本さん そのためには、自分たちの

技能も高めていく必要性を感じます。講師として下手な技能は見せられませんし、責任を持って教え伝えていくことが大切。今後も技能士会の活動を通じて、岡山のタイル張りを盛り上げていきたいですね。そして、マスター認定者もたくさん生み出せたら嬉しいなあ。





若手の好奇心に火をつけることで、
組織の生産力は高まっていく。

ベテランの職人が定年退職したことで、加工機を扱える技能者が少なくなり、社内の旋盤を持て余していた同社。「かさむ外注費を抑え、自社内での生産を増やしていきたい…」と考えていたときに知ったのが、このマイスター制度でした。中小企業の多くが抱える悩みを解消した好事例を紹介します。

ものづくりマイスター派遣先企業

■ 四国工業 株式会社

所在地	徳島県板野郡藍住町東中富字北傍示2-9	従業員数	26名
事業内容	スラッジカット(微細スラッジ分離装置)、 精密部品洗浄機、研削液濾過機の製造販売	設立年	昭和43年
		資本金	1000万円



持て余した加工機を、有効活用する。

「私たちが、〈ものづくりマイスター〉の派遣をお願いした理由。」

参考書やネットにも載っていない、
“生きた知恵と技”を、盗んでもらいたい。

当社は創業から50年。ベテランの職人たちが引退し、現場には若手技能者も多くなり、技能レベルの低下を心配していました。大きな投資をして揃えた旋盤も、あまり使われることなくホコリを被っていました。旋盤を使った加工もよく発生するのにも関わらず、自らやってみようとする手も少なく、ほぼ100%が外注へ加工依頼…。こんな状況をなんとかしたいと思っていたときに、たまたまマイスター制度を知りました。私が期待したのは、若手社員のモチベーションの向上です。マイスターの熟練された手さばきとあらゆる知識、何よりも仕事に向き合う熱量を感じとってほしかった。やっぱりそういった“職人のすごさ”みたいなものって、生でしか感じられないじゃないですか。本やパソコンでは得られないものがあるから、このマイスター制度は価値があるのだと思っています。実際、参加してくれた若手技能者は、積極的に加工作業を行うようになり、この2年間で内製率が40%近くにまで上がりました。



四国工業 株式会社
取締役専務 前野敦史さん

■ 実施したカリキュラム

指導の概要

実施回数：2回 受講者数：1名(他企業含め全5名)
実施場所：徳島職業能力開発促進センター



プログラム内容

1回目 旋盤の基礎知識／加工実習

2回目 旋盤での加工実習

💡 教育プログラムの解説

2日間にわたって、課題を用いての実習を行います。プログラム内容は、〈芯出し→端面加工→外径加工→ドリル加工→内径加工→テーパ加工→偏心加工→刃先の調整〉など、基礎的なことをひと通り網羅。まずはマイスターが手順を実演し、それを見てから受講生が加工をします。課題の製作物をきれいに作り終えることが目的ではなく、実技を行う中でいつでも質問可能にし、受講生それぞれが聞きたいことを、マイスターから気軽に教えてもらえる場になっています。

座談会 INTERVIEW

ものづくりマスター × 若手技能者
「実技指導を通して、こんなことを学びました。」

ものづくりマスター (写真_右)

河野 元一さん

昭和23年生まれ
昭和56年度 1級技能士「機械加工(普通旋盤作業)」取得
平成12年度 徳島県「機械マスター」認定
平成25年度 厚生労働省 ものづくりマスター「機械加工」認定

50年近くこの業界に携わり、加工技能を追究し続けてきた大ベテラン。定年前の10年ほどは研究開発職も務めてきた。長年現場で培ってきた豊かな経験を活かした引き出しの多さで、技能の面白さと知識を、これからの若者たちに伝えています。

正解はないから、 経験こそが道になる。

河野さん 私は機械加工の現場で40年くらい、研究開発で10年くらい仕事をしてきました。特に大手食品メーカーからの依頼を受けて、食品を充填する機械など設計・製造に携わることが多かったですね。

佐藤さん すごい!もう半世紀近いキャリアですね。具体的にはどんなものをつくっていたんですか?

河野さん みなさんに身近な、牛乳・乳酸飲料・ヨーグルトなどの中身を充填する機械ですね。同じ商品でもメーカーさんごとに容器やフタの形状・素材がまったく違う。それぞれに合わせた機械をつくるのは、難しいんですよ。新商品は納期も迫っていて、その中で最適な加工方法を考え、すぐに作業を実践していくのは大変でした。

佐藤さん 同じものを生産するならば早いかもしれませんが、毎回、違うものをつくるのは大変そうですね。

河野さん けれども振り返ってみると、こういった多種多様なオーダーに応え続けていくことで、私の知識と技能は磨かれたのだと思います。機械加工の面白さであり大変さでもあるのは、これ

といった正解がないこと。だからこそ、できるだけ多くの製品加工を経験し、その検証結果を、自分の中にストックしていくことが重要。現場での学びこそが、迷ったときに進むべき道を示してくれるのだと思います。



指導 = 教わる場ではなく、 答え合わせの場には。

佐藤さん 僕の仕事は組立てがメイン。普段はめったに機械加工はせずに、主に外注しています。なので、これまでは自己流でやってきました。やっぱり自分で旋盤やフライス盤を使っているだけだと不安なんです。今回は、その答え合わせをするつもりで実技指導に参加しました。

河野さん いい心掛けですね。私もマニュアルに沿って教えるというより、その人その人がわからない部分、知りた

受講した若手技能者 (写真_左)

佐藤 大介さん | 平成17年入社

いろいろな技能を貪欲に学ぶ、若手のホープ。今回の実技指導を通して、さらにものづくりの面白さを知る。「いつかは自宅に旋盤がほしいなあ」と笑う、現場のムードメーカー。

い部分をポイントに教えるようにしています。特にマスターとして受講生の方に絡む時間はわずかなものですから。技能のすべてを伝えるのは難しい。何か目的をもって来ていただいたほうが、有意義な時間になることは間違いないでしょう。

佐藤さん 今回、参加してわかったのは、意外にも加工手順や所作は大きく間違っていなかったこと。「あれ、案外いけるじゃん!」と少し自信になりました(笑)。ただ、刃先の高さを合わせる調整方法や四つ爪を使った加工については、初めて知ることが多かったですね。本当なら、毎日でも河野マスターに教えてもらいたいくらい。

河野さん 先程もお伝えしたとおり、機械加工は経験こそがすべて。できる限り多くの製品を加工し、その都度、わからないことをクリアしていけば、自ずと実力がついてくるはずですよ。



持て余した加工機を、有効活用する。



もっと知りたい、上手になりたい。
究めようとする心こそが、技能者の力。

好きなら好きなほど、 得をする世界。

佐藤さん 2年ほど前までは、外注加工がほぼ100%だったのを、今では40%近くまで内製で行えるようになりました。できることが増えるのは、何よりも楽しいです。実際に僕も入社当時は溶接からスタートし、組立て業務を経て、今ではこうして機械加工を覚えるまでに視野も広がってきました。

河野さん 技能を育てるのは、本人の好奇心。私も70歳近くになりますが、いまだに学びは尽きません。マスターになったことで、毎度いろいろな企業や

学校を回るの、その都度、「どうやって指導するのがいいの?」と頭を悩まして、勉強させてもらっています。

佐藤さん さっきもちょっと旋盤をさわりながら教えてもらったとき、目が輝いていましたよね(笑)。僕も負けなよう、どんどん新しい技能にチャレンジしたい。結果的に、それが会社の利益にもつながっていくと思いますので。近いうちには、自社内ですべての加工ができるようにするのが目標です。

河野さん この世界で生きていくには、学び続けたい先はない。だからといって窮屈にやるのではなく、自ら探究心をもって挑んでほしいですね。そのため

にも、目の前にある仕事を好きになること。熱中してやっているうちに、技能はあとからついてきますから。



「私たちが、〈ものづくりマイスター〉の派遣をお願いした理由。」

若者たちが、この業界で輝くために。
巣立ちの時にそなえ、本物の技を与えてあげたい。

家具製作の現場もまた、高齢化が進んでいます。「若い人たちにも、家具づくりの醍醐味を知ってもらいたい」。その思いから、当社では若者を積極的に採用しています。なかには、わざわざ東京から移住してまで、うちに来てくれる子もいる。そういった勢いのある若者たちに、業界の未来を変えてほしい。そのためにも、カンナやノミといった本物の職人技をマスターさせたかった。今や家具製作のほとんどが機械化していて、手作業の部分は全体の10%ちょっと。だからこそ、わずかな手仕事でクオリティーに差を生む。本当なら私が教えられればいいのですが、社長業もあるし、なかなか現場でべったりと指導するのは難しい…。育成方法に悩んでいた時に、タイミングよく声をかけてくれたのが、元々仲のいい建具屋さんの社長であったマイスターの森本さん。「マイスター制度というのを使って、若手を鍛えていかないか？」その一言から、このプロジェクトが始まりました。



有限会社 藤田木工所
代表取締役 藤田淳司さん

世界にただひとつの家具をつくる。
こだわりを叶えるのは、職人の手仕事。

「お客様の想いを、世界にひとつだけの家具へ込める」。情熱を秘めた若者たちが、家具づくりに没頭する有限会社藤田木工所。今や製作工程の9割を機械に頼るなか、残りの手加工が仕上がりを左右する。その細部までこだわるために、社長とマイスターがタッグを組んで、次の世代へ本物の技を託します。

ものづくりマイスター派遣先企業

■ 有限会社 藤田木工所

所在地	香川県高松市池田町1254-5	従業員数	10名
事業内容	店舗や住宅の内装仕上げ工事一式 ／オリジナルの別注家具製造	設立年	平成7年
		資本金	300万円



■ 実施したカリキュラム

指導の概要

実施回数：20回 受講者数：6名
実施場所：有限会社 藤田木工所 作業場



プログラム内容

1回目	カンナの台直し1	11回目	墨付けの仕方2
2回目	カンナの台直し2	12回目	墨付けの仕方3
3回目	カンナの台直し3	13回目	ノミでの穴加工1
4回目	カンナの研ぎ1	14回目	ノミでの穴加工2
5回目	カンナの研ぎ2	15回目	ノミでの穴加工3
6回目	カンナの研ぎ3	16回目	ノミでの穴加工4
7回目	ノミの研ぎ1	17回目	ノミでのほぞ加工1
8回目	ノミの研ぎ2	18回目	ノミでのほぞ加工2
9回目	ノミの研ぎ3	19回目	ノミでのほぞ加工3
10回目	墨付けの仕方1	20回目	ノミでのほぞ加工4



教育プログラムの解説

指導にあたる森本さんは、家具・建具製作のマイスター。本業は手作業の多い建具職人で、いわば手加工のプロフェッショナルです。その森本マイスターが、若手社員に対し、一つひとつの技能を基礎から指導します。プログラムの内容は、技能検定「建具製作」2級の内容をベースに構築。道具の基本的な扱い方や、手加工の基礎を身につけます。実技指導は基本的に水曜日に開催し、業務を終えた夕方から指導を行うため、従業員も無理なく参加可能。若手同士が技量を競いあう場にもなり、現場がさらに活性化されています。

道具の扱い方から学び、職人技を知る。

CASE_08 家具製作 技能をマスターに学ぶ

座談会 INTERVIEW | ものづくりマスター × 若手技能者 「実技指導を通して、こんなことを学びました。」

ものづくりマスター (写真_左から3番目)

森本 隆さん

昭和40年生まれ
平成11年度 1級技能士「建具製作(木製建具手加工作業)」取得
平成12年度 1級技能士「家具製作(家具手加工作業)」取得
平成25年度 厚生労働省ものづくりマスター「家具製作」「建具製作」認定



この道、35年超の大ベテラン。現在は建具製作を行う会社の社長を務める。「業界全体のことを考え、次の世代に職人技を残したい」との思いから、マスターとして若手の育成に励む。

受講した若手技能者 (写真_1番右)

市川 隆さん | 平成27年入社

ものづくり職人に憧れて、藤田木工所へ入社。ひたむきに技の習得を続けている努力家。平成29年に「家具製作(家具手加工作業)2級」を取得。次は、「建具製作(木製建具手加工作業)2級」に挑む。

受講した若手技能者 (写真_1番左)

桑江 龍哉さん | 平成26年入社

前職は、家具販売スタッフ。「家具を自分の手でつくり、いつかは自社ブランドを立ち上げたい」と、思いきって東京から移住。大きな夢に向けて、日々奮闘中。

道具を、“自分の道具”にする。それが職人への第一歩。

森本さん ここ10年くらいの間に、「最近の若い子たちは、道具の使い方を知らないんだな」と思い知らされました。今じゃ機械加工がメインで、手作業はほとんどないから当然。そんな業界の現状に哀しくなり、私から仲のいい藤田社長に声をかけたんです。「ぜひ、おたくの若い子に、手仕事を教えさせてくれないか」と。実際、どうかな?現場じゃカンナやノミなんて使わないでしょ?

市川さん あまり使わなかったですね。でも、職人さんが作るいい道具なので、ある程度は使える気になっていました…お恥ずかしながら。

森本さん 僕らの道具は、買ってすぐに使えるものじゃない。自分で調節して使ってみて、それでまた調節して、自分の道具に仕上げていく。その調節ができないと、まともにカンナを引くことすらできない。なので、まずは道具の仕込み方から教えました。

桑江さん 習った方法で、丁寧に仕込んだカンナを引くと、もう音がぜんぜん違うんですよ。「チューンッ」って!手応えの軽さも、削りカスの薄さも、まったく違う。びっくりしました。

市川さん 自分がやっていたのは、「カンナで削ってたんじゃないかって、木材をちぎってたんだ…」それくらいの差を感じましたね。



使える技が増えることで、アイデアが広がる。

森本さん 僕は35年以上この業界でやっていますが、形式をふまえて教えるのは初めて。参考書を読んだりしながら、改めて自分の技能が一般的に正しいのかどうかも、振り返りました。こんな歳だけれど、僕自身の勉強にもなっています。そして、とりあえずは1年が終わりました。ちゃんと、みんなの糧になるのかな?

桑江さん もちろんです!少しずつですが、現場で成長を感じています。つい先日も、機械が届かないような狭い部分を、フラットにしなければいけない場面があって。たかが1、2mmの話なんですけど、それが仕上がりに差を生む。これまでだったら「どうすればいいんだ…」とあたふたしていましたが、森本マスターから教えてもらった技と知識の



職人が、機械に頼ってはいられない。自らの手で、勝負してほしい。

おかげで、「あ、ノミがあればなんとかなるぞ」と、自分で対処できました。毎回、現場によって起こることはまちまち。技を習得することで、「その時どうするか?」の選択肢が広がるのを、肌で感じています。

自らの手で、どんな作業もこなす。スーパーマンを目指せ!

市川さん 森本マスターに学んだことで、この仕事の奥深さというか、難しさを思い知らされました。正直、今はできないことへの悔しさのほうが大きいです。指導を受け始めてからは、自然と休みの日に自主練習をするようになりました。森本さん 最初からのプロなんておら

ん。こんなこと言ったら、元も子もないけど、今日明日、来年再来年なんかで、職人技は身につかない。いつか受講者のみんなが、いい職人になってくれたらいい。だからみんなも、焦らず長い目で考えて、この仕事を続けてほしいんです。

桑江さん 僕は将来、自分で家具ブランドをつくりたい。まだまだ先は長そうですが、一つずつ技能を自分のものにしていきたいですね。

森本さん いい意気込みだ。この社長さんは、夢を応援してくれるからね。よく藤田社長とは、「なんでもできる、スーパーマンみたいな職人を育てたい」と話をしています。今の時代は、大手家具メーカーが独占状態。流行りものが、いつでもお手頃に見える。それに

勝っていくためには、やっぱり職人の手でしか生み出せない、そこでしか買えない、高品質の一点ものをつくらなきゃ。そのためにも、まずはあらゆる道具の使い方をマスターして、できないことをなくす。みんなの個性が、ものづくりに生きてくるようになるまで、面倒を見ていけたらなあと思っています。



電気溶接

技能をマイスターに学ぶ



新たな事業領域へ踏み込むために、
未知なる溶接技能へ挑む。

福岡給油施設は、福岡空港内にある燃料施設を運営する企業です。サービサーと呼ばれる、飛行機への燃料給油車の整備も行なっていますが、とあるきっかけから新たに、サービサーを手づくりすることになりました。しかし、社内の溶接技能(アーク溶接)だけでは事足りず、新たな溶接技能(TIG溶接)を身につける必要がありました。

ものづくりマイスター派遣先企業

■ 福岡給油施設 株式会社(マイナミグループ)

所在地	福岡県福岡市博多区青木457-1 福岡空港内(福岡空港事業所)	従業員数	102名
事業内容	福岡空港におけるハイドラント給油施設の運営ならびに 航空燃料の保管・給油・販売／一般石油製品の販売／ 輸出入貨物の保税保管・通関業務／不動産の賃貸・管理	設立年	昭和31年
		資本金	100百万円



テーマ

経験ゼロから、溶接技能を学ぶ。

「私たちが、〈ものづくりマイスター〉の派遣をお願いした理由。」

自社に持ち合わせていない技能を、
基礎から徹底的に教わりたかった。

「海外の空港で使用するサービサーを組み立ててほしい」。今から約3年前、そんな依頼が舞い込みました。当社では、福岡空港内でサービサーの点検整備は行っていたものの、イチからパーツを組み立てるのははじめて。それに伴い、必要な箇所を接合するTIG溶接のスキルが必要になりました。アーク溶接ができる社員はいるものの、TIG溶接に関しては溶接機すら社内に持ち合わせていない…。困り果て、社内外に相談したとき、当制度を知りました。とはいえ、経験ゼロでのスタートだったため、その道のプロであるマイスターに相談してよいものか、はじめは大変恐縮しましたね。それでも山田マイスターからは、初歩的なボタン操作から溶接時の姿勢・目線、トーチの持ち方、溶接棒の繰り方、など一通りTIG溶接ができるようになるまで、丁寧に教えていただきました。新たな溶接技能を習得できたことに加え、一流の技能を体感したことで社員の視座が高まったことが、大きな収穫だと感じています。



福岡給油施設 株式会社
工務部 部長 掛川国敏さん

■ 実施したカリキュラム

指導の概要 | 実施回数：10回 受講者数：6名
実施場所：福岡給油施設 株式会社 福岡空港事業所



■ プログラム内容

- | | | | |
|-----|-----------------------------|------|---------------------|
| 1回目 | TIG溶接機のセッティング、
取り扱い方法の説明 | 6回目 | アルミ溶接における
手順と心構え |
| 2回目 | トーチの操作をレクチャー | 7回目 | 下向き溶接の実習 |
| 3回目 | トーチの操作をレクチャー | 8回目 | 下向き溶接の実習 |
| 4回目 | 溶接棒の送り方をレクチャー | 9回目 | 角付き&隅肉溶接の実習 |
| 5回目 | 溶接棒の送り方をレクチャー | 10回目 | 角付き&隅肉溶接の実習 |



■ 教育プログラムの解説

TIG溶接を行うことがはじめての方ばかりでしたので、基本的な溶接機の操作方法から、トーチの扱い方、溶接棒の送り方など、順を追って教えるプログラムを実施しました。実技指導を中心に、個々人の溶接をみながら、それぞれに足りない技能を指導。最終的には、アルミを用いた下向き溶接、角付溶接、隅肉溶接を行えるようになることを目標にした内容です。結果、製品として通用するレベルのTIG溶接ができるまでに、技能が身につきました。

座談会
INTERVIEWものづくりマスター × 若手技能者
「実技指導を通して、こんなことを学びました。」ものづくりマスター
山田 哲彦さん昭和30年生まれ
平成12年度 九州溶接マスター認定
平成13年度 北九州マスター認定
平成24年度 卓越した技能者(現代の名工)表彰
平成25年度 黄綬褒章受章
平成26年度 厚生労働省 ものづくりマスター「電気溶接」認定

溶接技能を競う大会で表彰されるなど、輝かしい実績多数。現役の溶接技能者として福岡県内のエムシーテクノ株式会社勤務の傍ら、マスターとして企業や学校で後進の指導に携わる。自身だけでなく、教え子からも全国大会での優勝者・準優勝者を数多く輩出している。

日本の溶接技能のレベルは、
徐々に下がってきている。**山田さん** 最初に福岡給油施設さんにきたときは、アーク溶接の技能は持ち合わせていたものの、TIG溶接は未経験の方ばかりでした。そもそもTIG溶接機自体も導入したばかりの新品状態で、機械の操作方法などから教えることに。説明書を読み解きながら一緒に機械を設定したことを覚えています。**勇さん** そうでした。私たちが普段の業務で行うのはアーク溶接ばかり。だからこそ、会社から「TIG溶接の技能を身につけよう」と聞いたときは、非常に困惑していました。**三宅さん** それに、これまで自分たちが行っていた溶接は、いってみれば自己流みたいなもの。先輩から技能を教わって仕事をしてきたけれど、その道のプロと言えるかは自信もなく…。今回、山田マスターのような一流の腕前を持つ方に教わることは、社会的にもいい機会だな、と感じました。**栗原さん** とはいえ、溶接は溶接。アーク溶接は仕事で行うため、それと同様に、できると思っていた節もありました。ところが、いざ指導が始まると…。**山田さん** やってもらった溶接を見た際、正直に「みんな下手くそだよ」と

受講した若手技能者(写真_後列中央)

三宅 隆治さん | 平成15年入社

工務部に在籍し、サービサーの点検整備に携わる。今回の指導を受けて溶接の面白さを再認識。新たに資格を取得したいと鋭意勉強中。

会社の指導者(写真_後列右から3番目)

栗原 昭二さん

工務部に在籍し、サービサーの点検整備に携わる。普段は、溶接以外にも塗装や金属加工などさまざまな業務を手がける。

受講した若手技能者(写真_前列右端)

勇 賢治さん | 平成14年入社

工務部に在籍し、サービサーの点検整備に携わる。今回の指導を受けて、新人への技能指導も積極的に行なっている。

伝えました。これを溶接と呼べるのかと。ただ、福岡給油施設さんが特別なわけではありません。今、日本の溶接技能のレベルは、下がってきているのが現状なんです。

良い溶接を知ることで、
自然と社内は活性化していく。**山田さん** 先ほど三宅くんが言ったように、最近は身近で良い手本を見せてくれる溶接技能者が減ったな、と感じています。良い溶接というのは例えば、真っ直ぐな波目を描けているか、溶接の幅は揃っているか、余盛りの高さは均一か、など一目で「美しさ」がわかるもの。高いクオリティを出せる技能者が身近にいないことは、見る目が育つ機会が少ないということ。良し悪しの判断ができないと、自分たちの技能も向上しない。それは製品にも悪影響を

山田マスター

及ぼします。だからこそ私たちマスターは、次世代の方々が良い技能を知る機会を提供できたらと思うのです。**勇さん** 溶接棒の送り方、トーチの扱い方、溶接時の視線・姿勢、間合いの取り方。技能を一つひとつ細かく分解して、良い溶接に必要なイロハを教えてくださいました。**栗原さん** 技能以上にマスターが教えてくれたこと。それは「溶接の楽しさ」だったように思います。ビードがきれいに引けたとき、融合不良なく接着できたとき、みんなが徐々にスキルアップしていく手応えを感じられて、素直に嬉しかった。**三宅さん** そうそう、僕たちのレベルに沿った課題を出していただき、それを一つひとつ超えていく。純粋に楽しかったですし、他のやつには負けたくないな、なんて。

経験ゼロから、溶接技能を学ぶ。



手作りしたサービサーと工務部の方々

下手な溶接は、モノづくりをダメにする。
良い製品を生み出す、技と心を結びつきたい。若者は、わずかな
きっかけで成長する。
それを促すのがマスター。**栗原さん** 10回の実技指導はあっという間でした。はじめはTIG溶接機の扱い方すらわからない状態から、最終的には製品を組み立てられるレベルまで技能も向上しました。**三宅さん** とはいえ、まだまだもっと腕を磨いていく必要があるな、と感じています。溶接技能の奥深さを知ることができ、指導を受ける前とは仕事に対する心持ちも変わったように感じます。**勇さん** それもこれも、山田マスターが優しくも厳しい言葉をかけてくれたから。自分たちは「技能で飯を食う」いわば職人なのだ、改めて思い直すことができました。もっともっと良い溶接にこだわって、世の中に貢献してい

たいですね。

山田さん 自分はまだ現役で溶接の仕事に携わっていますが、やはり自分が培ってきた技能を次の世代に残していかなければならない。マスター制度に関わって、そんな風に感じています。

若い人たちは、少しのきっかけで見違えるように成長するんです。モノづくりに大切なのはヒトづくり。技と心が強く結びつくことで、より良い製品が生まれると信じています。



サービサーの一部

「私たちが、〈ものづくりマイスター〉の派遣をお願いした理由。」

これからは、業界全体で力を合わせて
次の世代を育てる時代。

今回お願いした一番の理由は、技能を極めていく面白さを若手職人に伝えて欲しかったから。一方的に「やらされる」のではなく、自分から技能を高めたい、と思ってもらうのが理想。ものづくりマイスターの指導が、そのきっかけになったら、と考えました。今回、吉村マイスターに指導してもらったことで、技能のレベルがあがったのはもちろん、若手の仕事への意気込みが変わりました。さらに、会社の垣根を越えて、職人同士の交流も生まれています。吉村マイスターとは、商売上は競合相手。お互い切磋琢磨しながら、人手が足りないときは、応援に駆けつける。そんないい関係を日頃から築かせてもらっています。これからは、みんなで協力しあって若手を育てていく時代。地元に残る若者も減り、技能の担い手は、どんどん少なくなっていく。だからこそ、ものづくりマイスター制度を活用しながら、業界全体を盛り上げていくことができれば理想的ですね。



宮崎県高技能士会
会長 松浦秀次さん

若手育成のために、職人が一致団結。
業界全体で、鳶職を盛り上げていく。

宮崎県内のとび技能士1級・2級を保持する鳶職人が所属する団体が、宮崎県鳶技能士会です。会長の松浦秀次氏は、鳶や足場工場の技能向上、人材育成に力を入れています。日頃から、若手の育成に熱心に取り組む宮崎県鳶技能士会が、ものづくりマイスター制度を導入した狙い、その効果をお聞きました。

ものづくりマイスター派遣先企業

■ 宮崎県鳶技能士会

所在地 宮崎県宮崎市跡江850-2(本部) 会員企業数 15社
活動内容 とび技能士の育成、とび技能の広報活動 設立年 昭和52年



■ 実施したカリキュラム

指導の概要

実施回数：20回 受講者数：2名
実施場所：有限会社松浦組 本社内

プログラム内容

- | | |
|-----------------|-----------------|
| 1回目 高床組立1 | 11回目 高床組立～小屋組立2 |
| 2回目 高床組立2 | 12回目 高床組立～解体1 |
| 3回目 棧橋組立 | 13回目 高床組立～解体2 |
| 4回目 小屋組立～解体1 | 14回目 高床組立～解体3 |
| 5回目 小屋組立～解体2 | 15回目 高床組立～解体4 |
| 6回目 高床組立～棧橋組立1 | 16回目 高床組立～解体5 |
| 7回目 高床組立～棧橋組立2 | 17回目 高床組立～解体6 |
| 8回目 高床組立～棧橋組立3 | 18回目 高床組立～解体7 |
| 9回目 高床組立～棧橋組立4 | 19回目 高床組立～解体8 |
| 10回目 高床組立～小屋組立1 | 20回目 高床組立～解体9 |



教育プログラムの解説

職人の勘所を掴むためには、基本が重要。基礎から徹底的に技能を覚えるためのプログラムを実施。あらゆる種類の組み方を網羅し、反復練習ができる内容にしました。さらに、一つひとつの作業を、マイスターがその場でチェックしながら、マンツーマンで指導。スピードと安全性の向上を重視し、これまで1時間かかっていた作業を45分、45分かかっていた作業を30分で、なおかつ安全にできるように訓練を行いました。



座談会 INTERVIEW

ものづくりマスター × 若手技能者
「実技指導を通して、こんなことを学びました。」

ものづくりマスター (写真_左)

吉村 亮さん

昭和49年生まれ
平成13年度 1級技能士「とび(とび作業)」取得
平成26年度 厚生労働省 ものづくりマスター「とび」認定

社会人になると同時に、鷹の世界へ。技能を次世代に伝えるために、ものづくりマスターを志す。松浦組の代表、松浦氏とは同時期に鷹の仕事始めた、20年来の仲。公私ともに交流がある。有限会社吉村工業の代表取締役社長。

意識が、変わった。 目つきも、変わった。

吉村さん 今回重視したのは、一つひとつの作業にかかる時間。作業スピードは、職人として当然、意識しないといけないところだと思うんですよ。一つずつ突き詰めていって、これができたら次、これができたら次と、全部で20回、指導を繰り返しました。長丁場だったから、モチベーションの維持も大変だったかもしれないけれど、楽しくできたんじゃないかと思います。

後藤さん 回を重ねるごとに、できることが増えていくのが、楽しかったです。早くきれいに組むためには、一つひと

つの作業のスピード、作業の順序がいかに重要か、分かりました。

吉村さん やりながら、覚えるしかないんですよ。図面と見比べて、形はあっているか、突きつけはあっているか、1個ずつ間違い探しをやるような感覚。見た目は正直変わらないんですよ。素人の方には分からないくらいの細かいところを、突き詰めていく作業ですから。

後藤さん 指導を受けて変わったのは、時間に対する意識ですね。自然と体がテキパキ動くようになったような気がします。

吉村さん 最後の頃には、目に自信がみなぎっていたもんですね。後藤くん、明らかに顔つきが変わったよ。



受講した若手技能者 (写真_右)

後藤 恵太さん | 平成25年入社

高校卒業と同時に、松浦組へ。入社5年目の現在は、新人の指導にもあたっている。技能検定1級を取得するのが現在の目標。



図面にはのらない、 空白を読み解いていく。

後藤さん 課題として渡された図面を最初に見たときは、お手上げ状態。「どうすればいいんだろう?」というのが、正直な印象でした。寸法はのっていても、クランプをどの位置に、どうつけるか、細かいところまでは図面にのっていないので。その辺は、その都度自分で考えないといけない。指導を受けながら、何度も繰り返し練習しました。図面で見ると、組むものとは、全然違いますね。

吉村さん 実際の仕事でも、図面と現場の状況が、全く違うこともよくあるからね。もっと言うと、僕がこの仕事を始めた20年くらい前は、CADがなかったから、図面すらなかった。材料だけが用意されていて、あとは職人に任されていたんです。図面があるだけでも、



垣根を超えて、技能を教えあうことで、 職人の世界に新たな変化をもたらす。

実はありがたいんですよ。この仕事は、時代の変化とともに、法改正の影響も受けるし、使う材料も変わっていく。常に勉強し続けないといけない仕事だと思います。

「技能は人に教えるな」から 教え合い、助け合う時代へ。

吉村さん 自社の社員に対しても、毎日指導ができるかと思ったら、なかなかできない。ミスが許されない時代ですから、現場で教えるのって、難しいんですよ。昔は元請けさんが、若手の成長のためだとわかってくれて、少しの失敗は大目に見てくれたんですが、今はそうじゃない。だからこそ、ものづ

くりマスター制度は、とても意義があると思います。

後藤さん マンツーマンで教えてもらう機会はなかなかないので、いい勉強になりました。

吉村さん かつて鷹の世界には、「技能は人に教えるな」といった風潮がありました。僕たちの世代は、マスター制度もなかったですし、ちゃんと教わった記憶がないんですよ。だから、僕の教え方は、かなり自己流。伝え方には、非常に気を使いました。いくら指導したとしても、きちんと身にならなければ意味がない。そういう意味では、今回の指導を通して教え方を勉強させてもらった気がしますね。

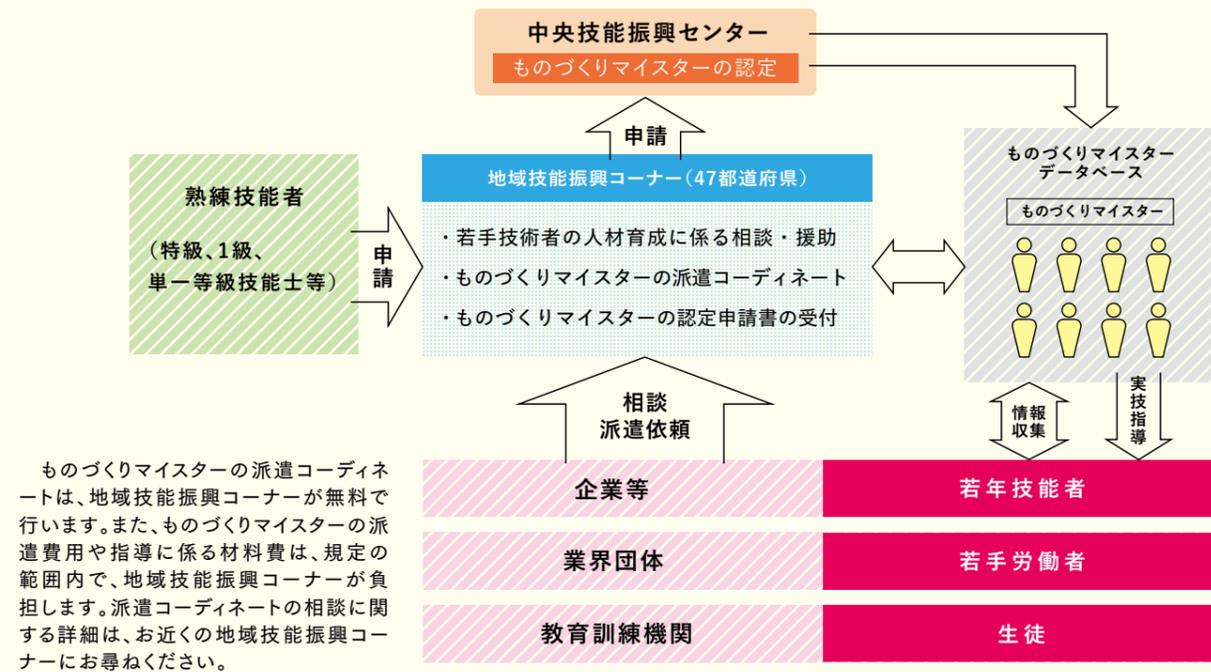
後藤さん 自分が現場を率いて、後輩

にアドバイスをすることもあるので、吉村マスターに教えてもらったことを、下の代にも伝えていけたらと思います。**吉村さん** これからの時代は、技能をお互いに教えあって、助け合っていくと思いますね。



『ものづくりマイスター制度』のご案内

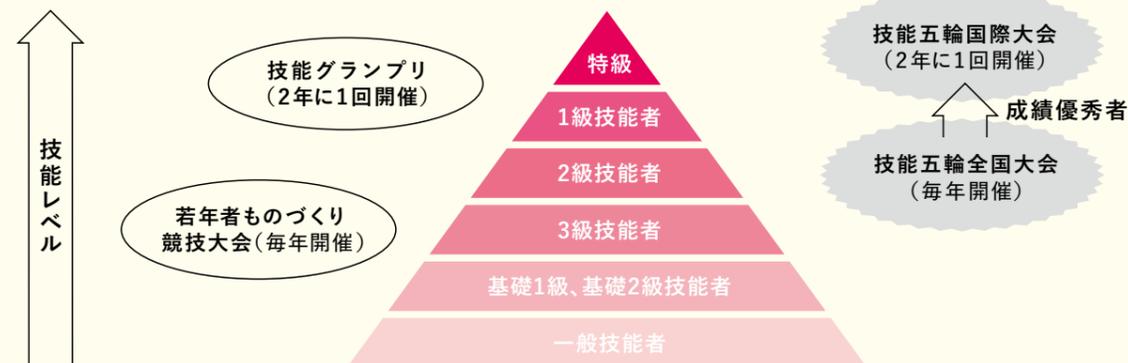
ものづくりマイスター制度の仕組み



ものづくりマイスター制度の仕組み

ものづくりマイスターの実技指導では、主に技能検定課題や技能五輪全国大会等の競技大会課題を活用して行っています。技能検定とは、労働者が有する技能を一定の基準によって検定し、これを公証する国家検定制度のことで、原則、1級、2級、3級等の各等級に区分されています。

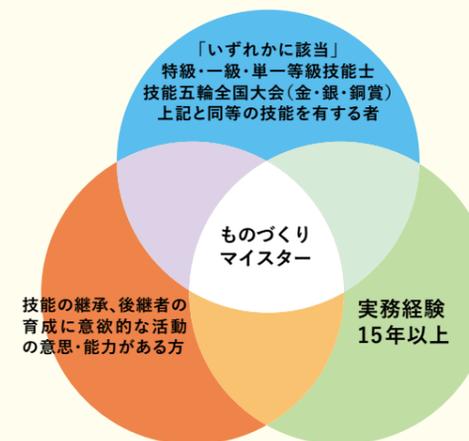
また、技能五輪全国大会を始めとした技能競技大会は、技能者の技能レベルを競うことにより、それぞれの技能の一層の向上や、広く国民一般に対して技能の重要性や必要性をアピールすることにより、技能者の社会的地位向上や若年技能者の裾野の拡大等に寄与しています。



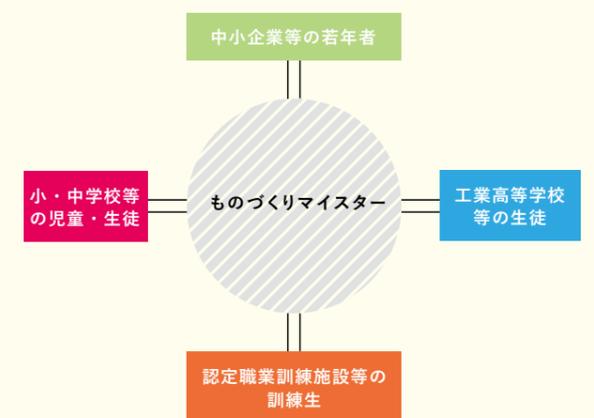
ものづくりマイスターの認定

ものづくりマイスターの認定を受けるためには、以下の全ての要件が必要です。認定申請書類により、中央技能振興センターでものづくりマイスターの審査・認定を行います。

ものづくりマイスターになるためには、以下の要件が必要です。



以下の方々を対象に実技指導を行います



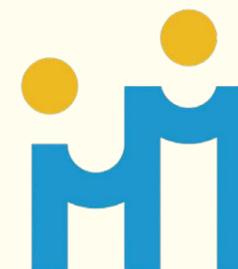
「ものづくりマイスター」シンボルマークのご紹介

厚生労働省では、ものづくりマイスターの認知度を向上させ、ものづくりマイスターがより活動しやすい環境を醸成することを目的に、平成26年度にシンボルマークを公募し、以下のデザインに決定しました。

▼ デザインの趣旨

「継承される技能」

ものづくりマイスターの「M」の字をモチーフに、2名の人が居るマークになっています。左側は手を動かし研鑽を積んで成長している若年技能者、右側はマイスターを表しています。



シンボルマーク
入り腕章・
ワッペンを着用例



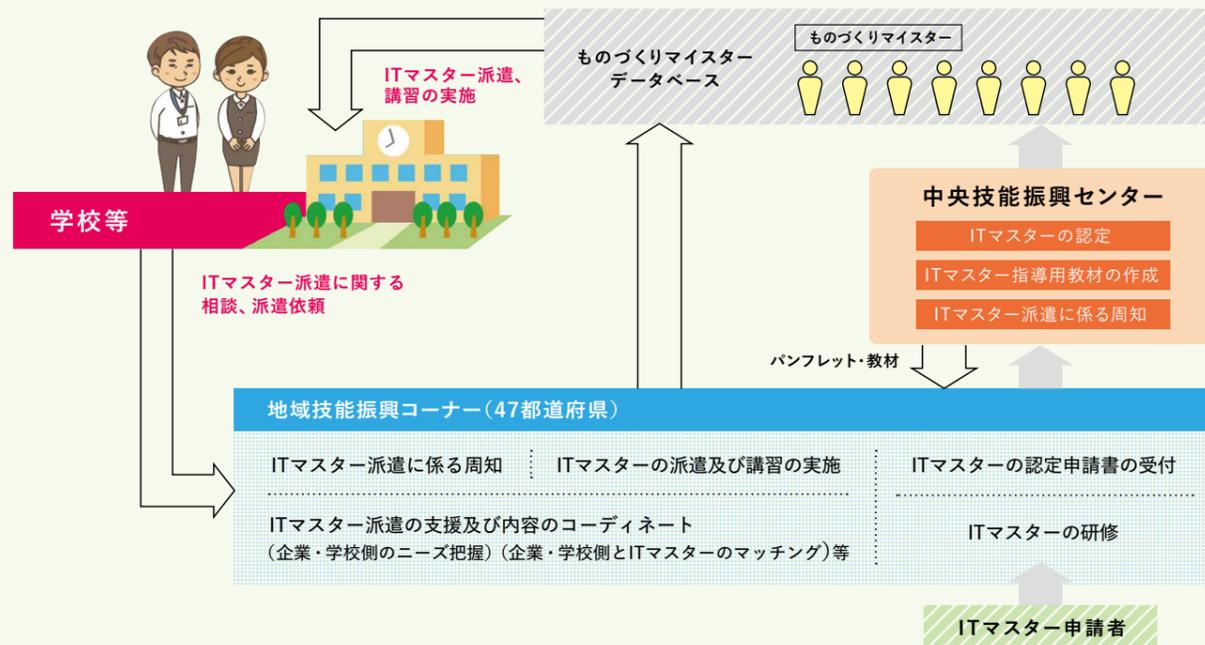
本シンボルマークを使用できるのは、ものづくりマイスター、厚生労働省、中央技能振興センター及び地域技能振興コーナーに限ります。

詳しくは、HP「ものづくりマイスターデータベース」をご覧ください。

『ITマスター』のご案内

日本の労働生産性を向上させるためには、労働者一人ひとりが情報技術を有効に活用できることが重要です。そこで、平成28年度からITリテラシーの強化や、将来のIT人材育成に向けて、情報技術に関する興味を喚起するとともに、情報技術を使いこなす職業能力を付与するため、情報技術関連職種における5つの職種を対象に優れた技能を持つ技能者を「ITマスター」として認定し、中小企業等や教育機関において実技指導を行うほか、IT技能に関わる楽しさを伝えるため、小・中学校等の生徒・児童に対し、講習等を実施しています。

ITマスター派遣の仕組み



ITマスターの認定

ITマスターの認定を受けるためには、所定の要件が必要です。認定申請書類により中央技能振興センターでITマスターの審査・認定を行います。

ITマスターの指導

ITマスターは、中小企業の若年技能者、工業高校の生徒等を対象に、技能検定の実技課題、技能競技大会の課題を用いて実技指導を行います。また、小・中学校等の児童・生徒を対象とした「ITの魅力」の発信として、以下のようなテキストを活用しながら分かりやすく講義を行います。



プログラミング教材 (小学生向け)

グラフィック教材 (中学生向け)

情報セキュリティ教材 (中学生向け)

詳しくは、HP「ものづくりマスターデータベース」をご覧ください。

ご利用方法について

厚生労働省が運営しているポータルサイト「ものづくりマスター／ITマスターデータベース」のご案内をいたします。このサイトでは、制度の詳しいご紹介はもちろん、ご要望にあったマスターを簡単に検索することが可能。ぜひ、みなさまにご活用いただければ幸いです。

ITマスターの指導内容

今すぐに、ベストな指導者が見つかる!

「ものづくりマスター／ITマスター データベース」



ポータルサイトの活用方法

当制度の魅力のご案内

ものづくりマスター制度とITマスター制度についてご紹介。例えば、実技指導の対象となる全職種を掲載するなど、より詳しい情報を知ることができます。

ものづくりマスター／ITマスターの検索

サイト内の検索システムを使って、ご要望に合った「ものづくりマスター」／「ITマスター」の方を調べることができます。

実技指導の実例のご紹介

今回、この冊子でご紹介した以外に、他の企業や学校がどのように当制度を利用しているのかをご案内しています。ぜひ、検討の際の参考にお使いください。

各都道府県の技能振興コーナー 連絡先一覧

全国47都道府県の相談窓口である、「地域技能振興コーナー」の連絡先も一覧で掲載。何かご不明な点やご相談などがあれば、お気軽にお問い合わせください。

詳しくは、HP「ものづくりマスターデータベース」をご覧ください。

ものづくりマスターデータベース

検索

